

平成30年度 上武大学 大学院 経営管理研究科 シラバス

講義番号	授業科目名	財務会計演習Ⅱ		担当教員	廣瀬 郁雄		
	英語授業科目名	Financial accounting seminar Ⅱ		単 位	4	学 期	通年
対象年次	2年次	クラス指定	なし	他との関連	財務会計特論A B		
履修条件	財務会計演習Ⅰを履修していること。						
テーマ・副題	わが国会計実務の現状とその問題点分析について						
授業の教育的・目的・目標	この授業は、財務会計に関する修士論文を完成させることが教育目標となる。						
授業の理解度の到達目標	いうまでもなく修士論文を完成させることである。						
授業キーワード	国際会計基準、企業会計基準						
授業の内容	日本型ビックバン（金融大改革）を背景に、わが国の財務会計制度、とりわけ21世紀における金融商品取引法は分配可能利益算定を重視する単体決算中心の会計から、情報開示を重視した連結決算中心の会計に移行することになった。このような会計環境のなかで、わが国の財務会計制度はどのような影響を受けることになってきたか、アメリカやEUなどの諸外国の動向や、国際会計基準の検討を通じて、わが国の財務会計制度が抱える諸問題を論文の中に反映するように指導を行なう。						
授業の方法	各回とも修士論文の作成経過を報告してもらい、論文完成に向けた指導を行う。						
授業展開	<p>[前期]</p> <p>修士論文の研究テーマを決定し、その論点や課題を発表してもらい、論文作成の経過内容を院生各自に順次発表してもらう。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 修士論文研究課題の確認（ガイダンス） 2. 修士論文の作成準備とその方法 3. 修士論文テーマの確認 4. 修士論文テーマ内容の個人別発表① 5. 修士論文テーマ内容の個人別発表② 6. 修士論文テーマ内容の個人別発表③ 7. 修士論文内容作成の個人別経過報告① 8. 修士論文内容作成の個人別経過報告② 9. 修士論文内容作成の個人別経過報告③ 10. 修士論文内容作成の個人別経過報告④ 11. 修士論文内容作成の個人別経過報告⑤ 12. 修士論文内容作成の個人別経過報告⑥ 13. 修士論文内容作成の個人別経過報告⑦ 14. 修士論文内容作成の個人別経過報告⑧ 15. 修士論文内容作成の個人別経過報告⑨ 			<p>[後期]</p> <p>本格的に修士論文完成に向けた論文指導が中心となる。そのために院生各自に順次作成経過を報告してもらった指導となる。</p> <ol style="list-style-type: none"> 16. 修士論文作成のこれまでの経過報告 17. 中間発表会に向けての個人別発表① 18. 中間発表会に向けての個人別発表② 19. 中間発表会にむけての予行演習 20. 中間発表会の反省とその改善点 21. 修士論文内容の個人別発表① 22. 修士論文内容の個人別発表② 23. 修士論文内容の個人別発表③ 24. 修士論文内容の個人別発表④ 25. 修士論文内容の個人別発表⑤ 26. 修士論文の個人別最終確認① 27. 修士論文の個人別最終確認② 28. 修士論文の個人別最終確認③ 29. 修士論文の個人別最終確認④ 30. 卒業研究論文の最終チェックと提出 			
成績評価方法	論文の完成内容を中心に、論点の整理や論文の発表状況などを総合して評価する。						
成績評価基準	論文の完成を目指して、積極的に論文の経過発表することが重要である。 なお、出席状況が60%未満である場合には、成績評価が不合格になる場合がある。						
テキスト	なし						
参考図書	会計専門誌；企業会計、税経通信、会計・監査ジャーナル、経営財務など						
準備学習に必要な時間、又はそれに準じる程度の具体的な学習内容	各自の研究論文テーマ（論点、課題など）に対して、発表担当者は発表内容の作成並びにその発表に対する予習を充分にしておくこと。						
学生へのメッセージ	論文のテーマを早く決定し、関係資料の収集を早めに手がけることが内容の充実した論文が完成することになる。						
オフィスアワー	主に下記に示したメールでもって質問等を受けることにする。						
連絡先	電話番号	0274-42-2828		メールアドレス	hirose@ic.jobu.ac.jp		
人数制限	なし						